

重要課題(マテリアリティ)と強化する資本との相関

大栄環境グループは、社会課題の解決に貢献しながら持続的に成長していくために、2024年6月、5つの重要課題(マテリアリティ)を特定しました。これらは、将来の事業環境を見据えた上で、中長期的に取り組むべき本質的な経営課題です。

これらの課題に的確に対応するため、財務資本に加えて、非財務資本(社会関係資本、製造資本、自然資本、知的資本、人的資本)への成長投資を推進し、資本基盤の強化に取り組んでいます。

下表は、各マテリアリティと6つの資本との関係性を示したものです。重要課題(マテリアリティ)と資本は、一対一で対応するものではなく、例えば施設整備には「社会関係資本」による地域との信頼関係と、「製造資本」としての施設の充実の両方が不可欠です。複数の資本が

相互に作用し合うことで非財務価値が創出され、結果として持続的な事業成長を支える好循環が生まれると考えています。マテリアリティ 5「経営の透明性とグループ力の向上」は、大栄環境グループの持続的成長の土台を成す中核的な課題であり、6つの非財務資本の全てに関わる重要課題(マテリアリティ)であると位置付けています。

相互に作用し合うことで非財務価値が創出され、結果として持続的な事業成長を支える好循環が生まれると考えています。マテリアリティ 5「経営の透明性とグループ力の向上」は、大栄環境グループの持続的成長の土台を成す中核的な課題であり、6つの非財務資本の全てに関わる重要課題(マテリアリティ)であると位置付けています。

重要課題(マテリアリティ)	6つの資本					
	財務資本	社会関係資本	製造資本	自然資本	知的資本	人的資本
	Focus 1 → P.23~24	Focus 2 → P.25~28	Focus 3 → P.29~30	Focus 4 → P.31~33	Focus 5 → P.34~36	Focus 6 → P.37~41
1 地域循環共生圏への基盤づくり	●	●	●	●		
2 環境創造企業に向けた事業基盤強化	●	●	●	●	●	
3 脱炭素社会への貢献と環境負荷の低減	●	●	●	●	●	●
4 人的資本経営の推進	●	●				●
5 経営の透明性とグループ力の向上			● Focus 1~6(全てに関わる)			

枠で囲んだところは、大栄環境グループが人的資本の強化とともに、優先的に資本強化を図るべき重要な領域です。

6つの資本に関しては、「Focus 1 ~ 6」として、個別に取り上げて紹介しています。

各資本に対する具体的な投資内容は、P.24の「キャッシュアロケーション」をご覧ください。

複数にわたる非財務資本に影響する重要課題(マテリアリティ)について

重要課題(マテリアリティ)は、それぞれが複数の非財務資本と密接に関係しています。中でも、マテリアリティ 1「地域循環共生圏への基盤づくり」、2「環境創造企業に向けた事業基盤強化」、3「脱炭素社会への貢献と環境

負荷の低減」は、大栄環境グループの事業成長を直接的に支える重要な課題です。事業の特性上、これらは主に「社会関係資本」「製造資本」「自然資本」と深く関わっています。

重要課題(マテリアリティ)	社会関係資本	×	製造資本	×	自然資本
	Focus 2		Focus 3		Focus 4
1 地域循環共生圏への基盤づくり	大栄環境グループは、各事業拠点において地域に根差した事業活動を積み重ね、地域住民の皆さまや自治体との間で「社会関係資本」にもつながる信頼関係の構築に努めています。そして、この地域との信頼関係の強化こそが「製造資本」となる廃棄物処理施設の新設や能力強化・更新を円滑に進めることを可能としてきました。また、当社グループも地域の一員として廃棄物の適正処理を行い、地域環境の保全やリスク低減に寄与することで「自然資本」の損失を防いでいます。				
2 環境創造企業に向けた事業基盤強化	「社会関係資本」にもつながる自治体との信頼関係の構築により、当社グループは既存施設での一般廃棄物の取扱量の拡大を進めています。「製造資本」である処理施設において産業廃棄物と一般廃棄物の一体的な処理が可能となることで、廃棄物処理をとりまく地域固有の課題解決にも貢献できると考えています。さらに、公民連携による新たなエネルギーセンターの整備を通じた地域間連携や、M&A企業との一体となった運営によりサービス提供エリアの拡大を進め、より広範な「自然資本」の損失予防に寄与しています。				
3 脱炭素社会への貢献と環境負荷の低減	廃棄物の新たな処理方法や事業スキームの開発に向けて、「社会関係資本」として動脈企業や外部研究機関など、さまざまなステークホルダーとの協業や研究体制を強化し、資源循環システムの高度化を進めています。また、「製造資本」の強化として廃棄物処理発電を活用した地域エネルギーセンターの構築を推進し、再生可能エネルギーや非化石エネルギーの創出とその活用を目指します。こうした取り組みの推進により、廃棄物処理・資源循環分野におけるサーキュラーエコノミーとカーボンニュートラルの両立を実現し、環境負荷の低減や「自然資本」の保全に寄与するとともに、その影響の範囲を広げていきます。				